

本年度からNIE実践指定校となった大野市上庄中は、新聞活用法を考へるため、教員対象の研修を開いた。講師を務めた福井新聞社の徳島泰彦コーディネーターは次期学習指導要領の理念に触れ「社会とつながる学びが求められている」とし、NIEの意義を強調した。

福井新聞社による教員対

新聞を読んで気になった記事について話し合う教員たち＝4月、大野市上庄中



思考力育む記事活用学ぶ

大野・上庄中で教員研修



象の研修は本年度初めて。勝天和宏校長をはじめ教員10人が参加した。徳島コーディネーターは、文章や写真、グラフ、イラストなど多様な素材で構成される新聞を読み取る

ことで、複雑な問いに、より良い解を探る思考力が育つと指摘。一定の時間内で新聞コラムを書き出す活動も勧め、論拠を示して書く力が伸びると語った。

新聞の中から気になった見出しを集める「言葉の貯金箱」、地域の話題を発信する壁新聞、オリジナルの見出し作りなど、県内中学校の多彩な実践例を紹介。この後、参加教員は2人1組となり、新聞の中から相手が選んだ記事を想像して当てるワークショップにも取り組み、コミュニケーション手段としての新聞活用を学んだ。

大野市上庄小は、新聞記事を読み、感想や意見を発表する「スピーチコンテスト」を毎年行うなどNIE活動が活発。勝天校長は「小学校からのつなぎを意識し、中学でも着実に進めていきたい」と力を込めた。

NIE担当の齊藤永敏教諭(39)は、生徒の前にも教員自身が新聞を身近に感じることが大事だと思いつ、研修を企画したという。情報を得る手段として、教材として新聞が役立つと感ぜた。大野や福井のことを深く知るために新聞を読む風土を広げていきたい」と話していた。

研修の問い合わせは福井新聞社みんなの新聞部 ☎0776(57)5122。(宇野和宏)